

FM ちゃお収録記録（センター「つどい」 月報より）

●2019（令和元）年度

No.	収録日	収集内容
1	4月11日	<p>NPO 法人ナック(アクトランド八尾所長) 宮嶋氏</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 今年度の「アクトランド八尾」での活動やイベントのご紹介。 ○ 宮嶋氏が考えるこれからの自然体験、環境教育とは。 ○ アクトランド八尾の指定管理業務の他、活動内容。
2	5月20日	<p>学生団体 はちのじ 代表 山野上洸平氏 副代表 川西仙太郎氏・山本穂世氏</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「はちのじ」は、どういうメンバーで構成されてどのような活動を行っている団体か。(現在の構成人数、新入生の勧誘活動) ○ 「はちのじ」の活動理念、方針とは ○ 今年度の「はちのじ」での活動やイベント ○ 「はちのじ」の代表、副代表として今後していきたいこと
3	6月12日	<p>環境アニメイティッドやお副代表 竹元紀子氏</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 竹元氏が環境活動に関わることになったきっかけ。 (いつから環境活動をされているのか。地域活動から派生して環境活動に広がったのか、それとも環境活動から広がりが出たのか。) ・ 竹元氏がされている活動 <ul style="list-style-type: none"> ①美園エコクラブでの活動 ②ビオトープ交流会での活動 ③コットンロード、中環での活動 ④環境アニメイティッドやおでの活動 ・ これから竹元氏がしていきたいこと
4	7月12日 (金)	<p>NPO 法人ニッポンバラタナゴ高安研究会 代表理事 加納 義彦氏</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 環境アニメイティッドやおの新たな取組となる「地域循環共生圏」とは。概要説明。 ・ これから地域循環共生圏で取り組んでいく内容とは。 ・ 生態学サービス+ものづくり企業から新しい商品開発。
5	7月31日 (水)	<p>ハッピーアースデイ大阪実行委員会 中村 満氏 株式会社美交工業 福田 久美子氏(久宝寺緑地指定管理者)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ハッピーアースデイ大阪の歴史。 <ul style="list-style-type: none"> ・ ハッピーアースデイ大阪とは。 ・ 立ち上げのきっかけ。 ・ 公園指定管理者としての関わり方。 ・ 立ち上げ後10年が経過した今、当初から変わらないもの、変化したものとは。 ● これからのハッピーアースデイ大阪、これからの環境。 <ul style="list-style-type: none"> ・ これからのハッピーアースデイ大阪に期待するものとは。 ・ これからの環境はどうなるのか。
6	2月14日	<p>おばんざいバルりんご屋 橋本氏</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもの時から海外で小学校をつくることを夢にしていた橋本氏は、平和や環境に対するメッセージ性のある MONGOL800 の楽曲を中学生の頃に聴き、地球環境問題に関心を持つ機会となり、環境活動に携わる動機になった。 ・ 山梨県での農業体験や自炊生活と、北新地の料理店へ従事し、富田林市内で活動する「特定非営利活動法人 富田林自然農法根っ子の会」に携わり得たことで、自然農法で久宝寺にある畑を借りて自家栽培のお野菜を提供するようになる。 ・ 自然農法（有機農法は動物性堆肥を使用するが、自然農法は堆肥のみで栽培）での自家栽培のお野菜を提供することで、無農薬による環境保全を意識した飲食店営業を八尾市内で行う。 ・ 店名の由来は、昭和の雰囲気と「おかえりなさい」という雰囲気を提供したい思いが店名となった。 ・ 「Re:女子部」として、社会活動に「楽しい」という付加価値を付けた取組みを大阪城公園や久宝寺緑地の道路沿いで清掃活動を行っている。清掃活動では、ゲームやクイズ、公園内の方と笑顔で写真撮影をするなど「遊び」や「ふれあい」を取り入れながら行っている。

No.	収録日	収集内容
7	3月19日	<p>きんたい廃校博物館 館長 大橋 一輝氏</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 旧高安中学校の理科室を活用して昨年12月15日「山ねきマルシェ」の開催日に「きんたい廃校博物館」（愛称：きんぱく）がプレオープンした。 ・ 当初は、高知県室戸市にある「むろと廃校水族館」をモデルにオープンの準備を進めてきた。しかし高安特有の水生生物が少ないこと、水環境を取り巻く高安山の植物など広く展示を行うために水族館ではなく博物館にされた。また「生物多様性」を意識して水環境だけに問わず博物館とした。 ・ 名称に「廃校」を入れているのは、上記のモデルもあるが、だ廃校活用での地域活性化などに興味のある方が増えており、SNSでも#(ハッシュタグ)を付けて「廃校」で記事を投稿される方も多し。そのことから「#廃校」で検索すると閲覧できるように「廃校」を名称に加えた。また環境活動をされていない新しい方に来場してもらうのも目的である。 ・ 日本中のイシガイを展示するなど世界唯一の展示も行っており、生き物に興味がある方にはとても興味深い展示がある。 ・ 現在は「きんぱくオリジナルグッズ」として革小物や植物標本(押し花形式ではない、植物の形をそのまま保管した標本箱で検討)を作成中である。 ・ 将来は、コロナウイルスの感染拡大が終息した後に毎週開館する本格オープンを考えている。日本一大きなニッポンバラタナゴが棲む水槽を作りたいとのこと。 ・ 体制としてはコーディネータ役である「館長」は大橋氏。企画・展示等の役割である「所長」は大阪経済法科大学の川瀬氏。副館長に松葉成生氏。デザイナーに松葉翔子氏。学芸員として近畿大学農学部の学生に携わってもらっている。 ・ 生物の専門知識がなくても運営に携われるようにボランティア講習会や定期的な研修会の実施を検討している。 ・ 大橋館長は、近畿大学の学生時代に大和川下流域の生態調査を行う中、ニッポンバラタナゴの保全活動にも携わっている。大和川下流域の生態調査の機会は大正小学校区まちづくり協議会会長だった村井松之助氏が八尾市政策推進課と協働で大和川のワンドでの生態調査を進めてきた。近畿大学に調査依頼があり、大橋氏が所属するゼミの先生が調査することで、大橋氏も携わることになった。